

アントレプレナーシップ・コンファランス（2011-2019）報告

2020年度で第10回目となるアントレプレナーシップ・コンファランス（EC）であるが、ちょうど節目の年を迎えるにあたり、これまでの報告者に簡単なアンケート調査を実施した。ECの役割、意義を見直し、改善することを目的とした調査である。第1回～第5回報告者には2016年2月に既に実施していたため、それに第6回～第9回報告者の調査（2020年6月実施）を加えた結果を、簡単にご報告したい。

この9年間の報告者33名（チーム）のうち、29報告者（チーム）からご回答いただいている。この29件の中で、既に論文投稿し終えたものは20件、図1のような学会誌に投稿されている。このうち査読論文に投稿された18件の結果を示すと、採択55.6%、不採択27.8%、投稿中（再審査含む）16.7%であった（図2）。

この図には表れていない（データには含まれない）定性データを補足すると、「1件の報告が複数の論文に結実しているもの」や、「博士論文や本の形に結実したもの」が複数見られる。報告したことで、新たなネットワークが生まれ共同研究に発展して、査読論文や本の形で公刊されたという回答も複数寄せられた。それらも含めると、EC報告者3名が、ベンチャー学会および組織学会の学会賞を受賞している。

最後に、ECに関するコメントや感想について、代表的な声のいくつかを掲載したい。

- 大学院を修了してからは隣接関連分野の研究者を前に長時間の報告・質疑応答を行う機会は減っていたため、非常に有意義であった。特に頂いたコメントは、今回の論文だけではなく、研究を進めていく上で大変有効であった。
- 総じて、停滞しかかっていた研究全体を前進させる上で、非常に価値ある気づきが得られた
- 当報告会で投稿論文作成の勘所を教えていただき、研究生活の大変さと共に楽しさを感じることができた。
- 指導教官以外の、複数の理論的視座に基づくご指導をいただく機会はとても貴重であり、学会発表や論文投稿の際に大いに役立っている。
- 他発表者の報告・フィードバック等も通して研究を行う際の着眼点を学ぶことができ、研究活動を行う上での視点を増やすことができた。
- 建設的なディスカッションが成立する機会の確保や提供は、研究・教育を進めていく上で、何よりも大切であると認識した。
- ややクローズドな場で「みっちり」と建設的な議論ができる機会は非常に稀有で意義深いものであると痛感した。
- 普段の学会発表ではなかなか得ることが難しいさまざまな知見を頂けたことを本当に感謝している。また、本コンファランスで知己を得た研究者の方々と共同研究の機会を頂くという、事前には意図していなかった、大変魅力的な副次的効果もあった。
- それまで主に活動していた学会では出会えなかった先生方と出会え、現在の研究に

つながる研究者人脈も形成できた。アントレコンファレンスの他報告者とは親交が生じ、現在の研究にも反映されている。

- 研究論文を発展させるための場という明確なテーマがあるため、研究論文の完成を目指している人間にとって有益な場であると感じました。
- 暖かく、かつ的確なご指摘をいただいた。研究テーマの絞り方、論旨のまとめ方など、自身に足りない点に気づくきっかけとなった。
- 通常であれば論文を読んでいただいたり、フィードバックをしていただいたりするのできないような先生方からの有益なコメントを得られたことは、大変ありがたかった。

なお「また機会があれば報告したい。参加したい」、「今後も継続して欲しい」というコメントが数多く寄せられたことも追記して、このレポートを締めくくりたい。

図 1

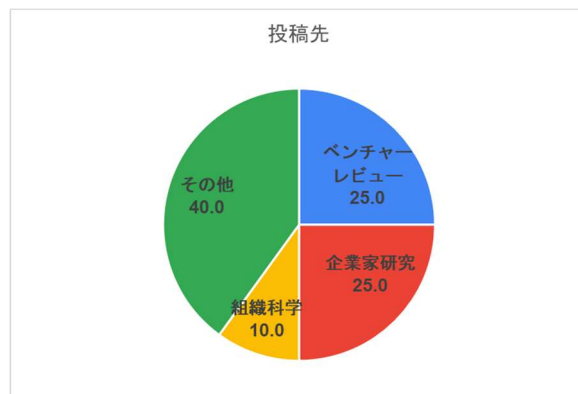


図 2

